

2003年5月19日

*本リリースは、2003年5月13日に米国で発表されたプレスリリースの和訳です。

[ご参考]

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ、 2003年第1四半期の業績を発表

日本における当四半期の変額年金保険の販売額は830億円を達成

[米国 コネチカット州ハートフォード 2003年5月13日]

大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ (NYSE 略称: **HIG**、以下「ザ・ハートフォード」) は本日、2003年第1四半期 (2003年1～3月、以下「当四半期」) の業績を発表し、アスベスト関連の責任準備金の積み増しが起因して14億ドルの純損失を計上したことを明らかにしました。また、1株当たり純損益は前年同期の1.17ドルの純利益に対して、当四半期は5.46ドル (希薄化後) の純損失となっています。

ザ・ハートフォードは、前日5月12日のアスベスト関連費用に係わる包括的かつ徹底した調査結果に基づき、アスベスト関連の責任準備金を26億ドル (再保険差し引き後、税引き前) の積み増しを発表しました。同時に、資金調達、損害保険事業の合理化、その他のコスト削減施策を含む、今後の一連の事業改善計画を発表し同社の競争力を高める姿勢を示しました。

税引き後のアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した場合、当四半期におけるザ・ハートフォードの純利益は、前年同期の2億9,200万ドルから5%増の3億600万ドルに達し、1株当たりの純利益 (希薄化後) は、前年同期の1.17ドルから1.19ドルに増加しています。純利益には税引き後の正味実現キャピタル・ロスが算入されていますが、当四半期における税引き後の正味実現キャピタル・ロスは、前年同期の100万ドルから増加し、3,400万ドルとなっています。

ザ・ハートフォードの日本法人、ハートフォード生命保険株式会社の当四半期における変額年金保険の販売額は830億円に達し、前年同期に比べ4倍以上の増加を見せています。

当四半期の販売額 830 億円のうち、667 億円が銀行チャネル経由の販売によるもので、昨年 10 月の銀行窓販開始後 6 ヶ月間の銀行チャネル経由の販売額は 1,286 億円に達していません。ハートフォード生命の日本における変額年金保険の累計販売額は、2003 年 3 月末現在で 3,160 億円を超えています。

ザ・ハートフォードの経常利益および税引き後のアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した経常利益は、GAAP 会計基準に準拠しない方式で算出されています。非 GAAP 方式に関する詳細は、後述の「非 GAAP 方式の定義と調整方法」の項をご参照ください。

ザ・ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは次のように述べています。「5 月 12 日、当社では、アスベスト関連の対応策およびその他のコスト削減策について断固たる措置を取ることを発表いたしました。当社では、アスベスト問題を過去の負の遺産として決別し、今後も損害保険市場において強力な競争力を堅持していく構えです。」

第 1 四半期業績（連結ベース）

「1 株当たり」を除く単位：100 万ドル（税引き後）	第 1 四半期（1 月～3 月）	
	2003 年	2002 年
純利益（損失）	\$ (1,395)	\$ 292
- 正味実現キャピタル・ロス	(34)	(1)
経常利益（損失）	\$ (1,361)	\$ 293
- 2003 年におけるアスベスト準備金積み増しの影響	(1,701)	-
アスベスト責任準備金を除外した経常利益	\$ 340	\$ 293
- 純利益（損失）（希薄化後、1 株当たり）	\$ (5.46)	\$ 1.17
- 経常利益（損失）（希薄化後、1 株当たり）	\$ (5.33)	\$ 1.17
- アスベスト責任準備金を除外した経常利益（希薄化後、1 株当たり）	\$ 1.33	\$ 1.17

またアイアーは次のように述べています。「当四半期における業績は、ザ・ハートフォードの中核となる事業基盤の堅調さが表れています。多角的なビジネス・モデルが幸いし、複数の堅実な収益源が確保されています。」

アイアーは、今後も損害保険事業は安定した価格の恩恵を受けるとともに、事業戦略を着実に実行することにより利益を生み出していくと考えています。生命保険事業においては、団体生命保険が再び二桁の伸びを示し、一方、投資商品の売上也株式市場の低迷にもかかわらず順調です。

アスベスト関連の責任準備金積み増しにより、ザ・ハートフォードの当四半期における経

常利益は14億ドルの経常損失となり、1株当たりでは5.33ドル(希薄化後)の損失を計上しています。

税引き後のアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した場合、当四半期における経常利益は、前年同期の2億9,300万ドルから16%増加し、3億4,000万ドルを計上、1株当たり(希薄化後)では前年同期の1.17ドルから1.33ドルに増加しています。

当四半期における1株当たり経常利益(希薄化後)には、2002年第3四半期に実施した増資の結果730万株を発行したことにより前年同期に比べて発行済株式数が増加したことが影響しています。

当四半期におけるザ・ハートフォードの総収入は、前年同期比で7%増加して43億ドルに達しました。アイアーは次のように述べています。「(アスベスト関連の責任準備金積み増しを除外すると)現在展開中の事業が堅実に収益を上げているということは、当社のビジネス・モデルが引き続きトップ・レベルの成長を支えていることを示しています」。

生命保険事業

アイアーは生命保険事業について次のように述べています。「当社の年金事業は、厳しい市況の中、着実にマーケット・シェアを拡大しています」。ザ・ハートフォードは、当四半期において個人年金部門の販売およびその他預り金で36億ドルを計上しました。これは2002年第4四半期と比較すると僅かに減少しているものの、前年同期比では27%増と飛躍的な増加となっています。

第1四半期における生命保険事業の業績

単位：100万ドル(税引き後)	第1四半期(1月~3月)	
	2003年	2002年
純利益	\$126	\$170
-正味実現キャピタル・ロス	(31)	(7)
経常利益	\$157	\$177

ザ・ハートフォードの生命保険事業における純利益は、前年同期の1億7,000万ドルから26%減少していますが、これは正味実現キャピタル・ロスの増加と長引く株価の低迷が個人年金部門の業績に影響を及ぼしていることによるものです。

2003年3月31日現在、投資商品部門の運用資産残高は2002年12月末と同水準の1,101億ドルですが、前年同期の1,227億ドルに比べると10%の減少となっています。当四半期における純利益は、前年同期の1億1,700万ドルから16%の減少となり、9,800万ドルを計上しました。これは主に株価低迷によって運用資産残高が減り、手数料収入が減少したためです。

個人生命保険部門での純利益は、前年同期に比べ3%上昇し、3,200万ドルを計上しました。しかし株価低迷の影響は免れず、純利益が前四半期に比べて6%の減少となっています。一方、勘定価額は76億ドルで、前年同期比では5%減少しているものの、前四半期と比べると同水準となっています。また、引き続き市場全体での変額商品から定額商品への移行が起きているため、個人向け生命保険商品の販売額は前年同期の3,900万ドルから11%減少しています。

団体保険部門では、競争が激化する状況にもかかわらず、リスク管理と堅実な料率設定が効を奏し、当四半期において二桁の収益増を達成しました。純利益は前年同期比で21%増の3,400万ドルとなりましたが、完全生保型制度の収入保険料は2%減少し、5,680億ドルとなりました。買収分を除いた完全生保型制度の販売額は、団体就労不能保険、団体生命保険の大口市場の競争激化により、37%減少し2億2,200万ドルとなっています。

北米損害保険事業

ザ・ハートフォードの北米損害保険事業の当四半期における純利益は1億6,800万ドルで前年同期の1億2,700万ドルと比較して32%増となっています。

アイアーは次のように述べています。「ザ・ハートフォードの北米損害保険事業は、主要市場でのシェアを拡大しており、他社と異なる商品とビジネス・モデル、安定した価格、堅実な契約査定によって経過保険料は二桁の伸びとなり、コンバインド・レシオも100を下回っています」。

第1四半期における北米損害保険事業の業績

単位：100万ドル（税引き後）	第1四半期（1月～3月）	
	2003年	2002年
純利益	\$168	\$127
-正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）	(9)	5
経常利益	\$177	\$122

ザ・ハートフォードの北米損害保険事業では、安定した価格の恩恵を受け、計上正味収入保険料が、前年同期の 21 億ドルから 18% 上昇し、当四半期は 24 億ドルとなっています。

経過保険料は、価格の上昇により、当四半期は 16% 増の 22 億ドルとなりました。コンバインド・レシオは 97.7 と、前年同期に比べ 2.5 ポイント、前四半期に比べ 2.3 ポイント改善されました。

災害損失を除外した場合、当四半期のコンバインド・レシオがさらに 2.6 ポイント改善し、95.1 となり、前年同期比で 4.0 ポイント改善されたこととなります。災害前のコンバインド・レシオは、北米損害保険事業の四部門のうち三部門において改善され、それぞれ、企業物件スペシャリティ保険で 5.3 ポイントの 97.5、個人損害保険では 7.7 ポイントの 91.3、事業損害保険で 2.8 ポイントの 94.6 となっています。

正味資産運用収益は 2 億 4,300 万ドルで 12% 増加しました。これは主に資産残高が増えたことによるものです。

事業損害保険では再び飛躍的な業績を達成しました。収入保険料は、前年同期の 8 億 2,500 万ドルより 20% 増の 9 億 9,000 万ドルとなりました。経過保険料も、前年同期の 7 億 3,200 万ドルから 8 億 8,000 万ドルに増加しています。

同時多発テロ事件で受けた影響を除外すると、法人保険部門は 8 四半期連続でコンバインド・レシオが 100 以下を記録しています。

事業損害保険では中小企業を対象とした二つの部門が相変わらず好調です。収入保険料は、小規模企業向けでは前年同期比 18% 増、中規模企業では 22% 増加しています。経過保険料でもそれぞれ、17%、24% 伸びています。法人特殊保険部門では、前年同期比で、収入保険料が 35%、経過保険料が 49% 上昇しています。

個人部門の収入保険料は 6% 増加し 7 億 7,000 万ドルを計上しています。これは主に米国退職者協会 (AARP) 事業が 11% 増加したことによるものです。個人部門全体での経過保険料は、前年同期比 8% 増の 7 億 7,200 万ドル、一方 AARP 事業だけでは 13% 増加しています。

個人部門のコンバインド・レシオは 92.7 で、これは前年同期から 8.5 ポイント改善されています。また住宅保険では、支払請求の件数が減り、災害の発生が少なかった為、前年から 11.7 ポイント改善され 80.8 でした。

当四半期における北米損害保険事業の税引き後の災害損失は、前年同期の 1,300 万ドルに対し、3,700 万ドルとなっています。

総資産および株主資本

2003 年 3 月 31 日現在、ザ・ハートフォードの総資産は、前年同期比で僅かに増加し 1,887 億ドルとなり、当社および子会社が運用する投資信託資産を含む運用資産残高は 2,052 億ドルに達しています。2003 年 3 月 31 日現在、その他の包括利益累積額を除く当社の 1 株当たり簿価は、アスベスト関連の責任準備金積み増しにより、前年同日の 37.77 ドルから 15% 減の 32.05 ドルとなりました。その他の包括利益累積額を算入した場合の当社の簿価は、2002 年 12 月末現在の 42.06 ドルに対し、2003 年 3 月 31 日現在は 36.97 ドルとなります。

アイアーは次のように述べています。「当社の中核事業は強固です。力強いキャッシュ・フローに加えて、統制の利いた競争力のある事業基盤により、市場の機会をうまく捉え、長期的な利益の成長を達成することができます。」

ザ・ハートフォードでは、5 月 14 日水曜日午前 10 時（東部時間）より、アナリスト説明会を行い、第 1 四半期の業績と 2003 年の見通しを発表しました。この模様は、スライド・プレゼンテーションにより、当社のウェブ上でご覧いただけます。
(www.thehartford.com/ir/index.html.)

非 GAAP 方式の定義と調整方法

ザ・ハートフォードの経常利益およびアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した経常利益及び純利益は、「非 GAAP 方式」で算出されています。ここで使用している当社の算出方法は、他社の算出方法と異なるため、投資家の皆様は、当社の「非 GAAP 方式」のデータと他社のデータを比較される際には十分な注意が必要です。

ザ・ハートフォードでは業績を評価する上で、経常利益を重視しています。当四半期における経常利益とは、純利益から税引き後の実現キャピタル・ゲイン（ロス）を除いた数字になります。当社では、投資家の皆様に当社の業績を正確に把握していただく上で、変動の激しいキャピタル・ゲイン（ロス）を除いた経常利益が重要な目安になると考えています。純利益は GAAP 基準に則った会計数字となっています。

当四半期および 2002 年における純損益の経常損益の算出方法については前述をご参照ください。

また当社では、投資家の皆様に既存事業の健全性を理解していただくために、アスベスト

関連の責任準備金積み増しは過去の事業に関連するものとし、税引き後のアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した純損益、経常損益をあわせて報告しています。

純利益は GAAP 基準に則っている会計数字となっています。当四半期および 2002 年におけるアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した経常損益の算出方法については前述をご参照ください。なお、純損益及びアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した純損益は以下のとおりです。

第 1 四半期のアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した純損益

単位：100 万ドル（税引き後）	第 1 四半期（1 月～3 月）	
	2003 年	2002 年
純利益（損失）	\$ (1,395)	\$ 292
- アスベスト責任準備金積み増しの影響	(1,701)	-
アスベスト責任準備金を除外した純利益	\$ 306	\$ 292

収入保険料は、GAAP 方式に基づかない予見的記述であり、ザ・ハートフォードでは当社の損害保険事業の業績を表す重要な要素として扱っています。収入保険料には決算年度に発行された保険契約に見合う保険料総額となっているため、投資家の皆様にはこの数字を参考に、ザ・ハートフォードの現在の事業を基盤となる動向について理解を深めていただきたいと思えます。経過保険料は、GAAP 基準による会計に最も近い数字になっており、決算年度において収益と認められる保険料の総額を表します。収入保険料と経過保険料との差額は、未経過保険料積立金の変化に拠るものです。

ザ・ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ（www.thehartford.com）にアクセスして The Hartford's Investor Financial Supplement のページをご覧ください。

このリリースに記載された一部の記述は、1995 年私募証券訴訟改正法（Private Securities Litigation Reform Act of 1995）において定義されている予見的情報とみなす必要があります。投資家の皆様にはこのような予見的記述が、当社の将来の業績を保証するものではなく、また実際の業績は大きく異なる可能性があることをご了解願います。また投資家の皆様におかれましては、当該リスクおよび不確定要素は将来の当社業績に影響を及ぼす可能性があることをご理解いただきたいと思えます。特にアスベスト責任準備金の額の妥当性に関しては、アスベスト被害者に拠る新たな訴訟の展開、アスベスト訴訟における被告会社の倒産等、今後の展開によって変化する可能性があります。また当社の増資計画は資本市場の価格変動によって、変わる可能性があります。

その他の重要なリスクおよび不確定要素として、今後のアスベスト訴訟の展開およびその他の環境問題に係わる訴訟の展開が当社に及ぼす影響などが上げられます。特に現在係争中のマッカーサー社およびその子会社であるウェスタン・マッカーサー社との間での決着、同時多発テロ事件に関連した被害理論、損失額、新たな事実展開、現在議会で検討されている減税法案がキャピタル・ゲインや配当への課税率に与える影響、再保険契約を結んでいる再保険会社の対応、再保険料率引上げに拠る影響、将来の損失を回収できるための適切な再保険契約が結べるかどうか、予

想を上回る被害、経済および景気の悪化、金利および株価の変動、競争の激化、規制・法律の改正、司法上の展開により当社に損失が生じる可能性、予想を上回る頻度・深刻度での自然災害の発生などが上げられます。また、当社では、本リリース発表後にその内容を更新する義務を負いません。

この件に関するお問い合わせ先は下記にお願いします：

当社のお客様ならびにはじめてのお客様 ： 03 - 5777 - 8684

報道関係 ：

ハートフォード生命保険株式会社 または ギャビン・アンダーソン・アンド・カンパニー
コーポレート・リレーション部 電話 03-5404-0640
ブルース・エルズワース
電話 03-5777-8000